

生物とともに暮らす

毎年、5月22日は「国際生物多様性の日」です。

地球には多くの生物が存在し、お互いに「食べる・食われる」という関係や、虫が花粉を運ぶなどの共生関係でつながり、支えあって生きています。すべて何らかの形でつながっており、多様な生き物があることが豊かな自然を作っているのです。こうした状態を「生物多様性」といいます。

そんな生物の多様性が、今急激に失われようとしています。生物多様性が失われると、私たちの命や人間の生存そのものもおびやかされるのです。身近な生物に目を向け、暮らしの中のいのちのつながりや私たちの出来ることを考えてみましょう！



～ 読売新聞 (2010年5月18日) 参考 ～



?? 「国際生物多様性の日」とは??

国連が1993年(平成5年)地球上の生物の多様性の保全などを目的とした「生物の多様性に関する条約」が発効したことを記念して定められた記念日です。

2010年は、「国際生物多様性年」であり、10月には様々な生物が生き続ける環境を守るため、何をすべきかを決めた「生物多様性条約」に参加する国の国際会議が名古屋市で行われます。

はて・なぜ・どうして
クイズ レッドリストの生きものたち
 ～環境問題チャレンジブック4～ 永戸 豊野 / 著
 合同出版【480 I】

人間は野生動物とどのようにつきあってきたのでしょうか。その結果、多くの野生動物が絶滅したり、絶滅のおそれがあるほど減っているという現実、そしてなぜ守らなければならないのかなど・・・野生動物にかかわる多くの問題を取り上げており、クイズ形式で分かりやすく解説されています。



子どもたちが動物を救う101の方法
 イングリッド・ニューカー/著 JAVA 翻訳チーム/訳
 新泉社【480 二】

動物が好きで、動物たちの苦しみや悲しい状況に心を痛める子どもたちにおくるメッセージが詰まった本です。

「虫をそっとしておいてあげよう。自然環境の中ではみんなそれぞれの役割があるのです」
 「動物を飼うなら、責任を持って最後まで飼おう」など、「私たちにできること」が紹介されており、動物たちとの関わりを気づかせてくれます。



「生きもの」への礼儀 宮崎美子 / 著
 光文社【462 ミ】

タレントの宮崎美子さんが、NHK「**生きもの地球紀行**」のナレーターとして、世界各地を回り、自然と人間との関わりについて、実際の体験から「自然への知識をもつこと」、「動物の群れの中で感じた温かさと安らぎ」など思ったことをつづっています。

生物が生きていける環境そのものを守ることの大切さを考えさせられる1冊です。



<「**生きもの地球紀行**」>

書籍・・・1階児童コーナーに所蔵しています。
 DVD・ビデオ・・・2階視聴覚コーナーに所蔵しています。

「地球があぶない」 地球危機管理委員会 / 編
 幻冬舎【519 子】

広がる砂漠化、地球温暖化、加速する生物種の絶滅など、この10年で特に悪化した環境問題から、現在起きていることまでを知ることができます。

他にも、
 「入門編 環境について知ろう」
 「実践編 すぐにできることから始めよう」
 が紹介され、興味があるところから読んでみましょう。



【 】内は、請求番号(本の背ラベルの記号)です。